



## ゆめくらしワークス事業部

～未来のわたしのカタチ ここからみつけよう～

7月号は”ゆめくらしワークス事業部“の取り組みをご紹介します。

～ゆめくらしワークスの3事業～

### ○就労移行支援

特集 “輝いてます 私”

～就労移行支援の準備期間から定着支援まで～

### ○自立訓練

今のがんばりに目を向けて

### ○就労継続支援B型

それぞれの働くカタチ

ゆめくらし  
ワークス事業部の  
見学・体験は、  
随時受け付けております。  
☎096-215-9103に  
お電話ください。

# 就労移行支援

めいとくの里の就労移行支援事業は8年目を迎えました。

受講者の皆さんが安心できる就業生活を描けるようワークトレーニング、ワークセミナー、カウンセリングなどのカリキュラムを行っています。

今回はOGの方と職場の皆様にお話を伺いました。

特集

## 輝いてます私

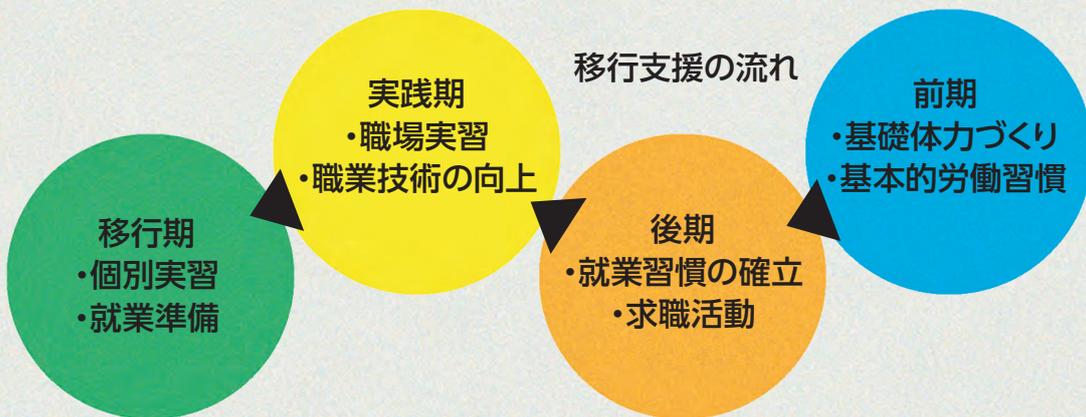
福田 美紀さん(21歳)

- 利用までの経緯  
16歳～18歳までの2年間自宅で過ごされていましたが、“自分を変えたい”“仕事をしたい”という気持ちになり、チャレンジめいとくの里の利用を開始されました。
- 就職日H25.11～社会福祉法人 青山会 くわのみ荘 事業所内保育所たんぽぽこどもえん 入社



仕事をしたい 夢をかなえたい

～就労移行支援の準備期間～



これまでの経験をもとに会社に働くうえで知ってもらいたいプロフィールを整理するためのマッチングシートを作成しました。就職面接の際にもマッチングシートを活用し、会社側への伝達をしていきました。また就職後のサポート体制として職業センターのジョブコーチ制度も利用できるように準備を進め、不安が軽減しました。

△サポート・アイテムづくり▽

初めて行った食品加工会社では、繰り返し作業が好きだということ、協力することの大切さに気付きました。事務系の会社では、確認作業が多くなり、体調が崩れていることへの気づきができました。また言葉が出づらいつきには、相談することで自分の気持ちを整理でき、徐々に言葉が出るようになりました。実習をかさね、自分を知り、ストレスの対処法を身につけることで自信が高まりました。

△仕事の適性、自己理解▽

初めて行った食品加工会社では、繰り返し作業が好きだということ、協力することの大切さに気付きました。事務系の会社では、確認作業が多くなり、体調が崩れていることへの気づきができました。また言葉が出づらいつきには、相談することで自分の気持ちを整理でき、徐々に言葉が出るようになりました。実習をかさね、自分を知り、ストレスの対処法を身につけることで自信が高まりました。

△生活リズムづくり▽

週3回の利用から週5回の利用を目標にして体調・生活リズムを整えることからスタートしました。面談の時間も適宜実施することで、現状をふりかえり、自分の気持ちを整理し、仕事をするための生活リズムができました。人と接する楽しみも見つけることができました。

～職場定着期間～

△保育補助のお仕事▽

私の仕事は、清掃等の環境整備や先生たちの補助です。こどもたちとの接し方で分からないときには先生のアドバイスを聞くようにしています。日々、こどもたちと接することで保育についての知識が増えました。自分にできることを考え、笑顔で仕事をしています。

△仕事お助けアイテム▽

私は、さまざまなことが気になってしまつので、気持ちを整理するノートを使用し、めいめいの里での相談時に伝えています。また仕事の情報や進め方については、ワークセミナーで学んだチェックリストを使用し、安心感を高めています。家の玄関には、カレンダーをおき、予定がすぐに見えるようにしています。

△今後のチャレンジ▽

将来、保育士の資格をとりたいという気持ちもありますが、今は仕事のスキルアップをしたいと考えています。こどもたちの接し方、保育という仕事を学び、先生たちのサポートを頑張りたいです。



職場でのサポート

～職場へインタビュー～

「遠くから見るとじゃなくて、一緒に全体を見てくれましたね」とたくさんさんの想いを語られる園長先生

これまでの美紀さんの経緯を知り、どのようなサポートしていくといいのか、ジョブコーチやめいめいの里の職員と一緒に考えました。一番良かったのは、サポートのために短い時間でもよく来てもらったことですね。美紀さんだけでなく、職場全体を見て、サポートされました。

昨年の5月に美紀さんの調子が良くなったときには、小休憩の使い方を提案してもらい、休憩時に現場の先生との打ち合わせを10分ほど取り入れることで不安だった美紀さんの気持ちが安定しました。美紀さんは、メモをとったり、報告することで落ち着くことができています。もう少し手を抜いていいところもあるかなと思います。彼女にとってはそれをするのが大切と気づきました。仕事が終わった後にめいめいに行くこともあるようで、拠り所があることはすごくいいことだと思います。

「みんなで支えている、この職員集団すごいよね」と満面の笑顔で話される先生方

はじめは、私たちが体調の波を気にしながら声をかけていたのが、今では自分から体調のことを伝えられるようになったのは大きい成長だと思います。自分の仕事の流れもよく分かっている、不安が長引くこともなく、がんばっていますよ。

昨年は気持ち的につらい時期もあったと思いますが、休憩時間に10分間の打ち合わせを続けていくことで、安定されてきました。口に出して言うつと自分の体調も分かれますよね。その時の美紀さんの変化は表情を見るとよく分かりました。担当一人ではなく、みんなが声をかけ支えていて、私たち職員も美紀さんに気づかされることがあり、勉強になりました。今は以前より、相談回数が少なくなり、仕事も進んできています。たまには「絵本を読んでいいですか」と自分から発言されることもあるんです。一言「その発言よかったね」と返すとほっとした表情になるのがうれしいです。昨年の秋からは、保育の流れを説明して、こどもたちに声をかける機会を作ってもらったり、話をして目標を決めたりしています。



「もつちよっと大きい声で声をかけてみよう」「一歩入って、輪に加わろう」など目標があることで、ここまで頑張ろうという粘

りができています。ちょっと課題を与えても努力してくれます。

最近では、冗談にもものつてくるなど、こんなに明るく、笑いが好きな人なんだなと美紀さんの性格がだんだんわかってきました。

こどもたちとも自然なやり取りができてきて、こどもたちも「みき先生！」と言うようになりました。ある場面では、こどもが自分でできることを甘えてやらないときに、「こどもたちができるまで待つ接し方をしてくれます。私たちの接し方をみて、感覚が分かってくるにつれて、その子の発達をいかに促していくか、そのしぐさが見えます。仕事をする中で、一つずつできていくことを認めると本人から喜びを感じます。これから、こどもたちみんなに呼びかけることができ、こどもが寄ってくることでまた大きな喜びになるのではと思います。たんぽぽこどもえんの一職員として、本人にあったステップアップをしていってほしいと考えています。



Aさん  
男性  
年齢:30歳



Aさんの  
一日の  
プログラム

**将来の目標:**生活リズムを安定させて、仕事をして社会復帰したい。

**現在の状況:**利用開始から1年3ヶ月が経ちます。作業を中心にしたプログラムを組立て、週に4~5日利用しています。働く準備も整ってきたので、次のステップを考えています。

**困り感:**自分の得意・不得意がわかりません。人と話す時に緊張感が高くなってしまいます。

10:00



**ワークプログラム**

将来、「働きたい」と希望されている方へは、ワークプログラムとして、受注作業が提供できます。実際の商品に触れながら、働く感覚が体験できます。

また、受注作業に取り組まれた方には、工賃を月に最高で4,000円くらい支給しています。毎月、メンバーのみなさん楽しみにされています。

11:00



**ワークサンプル**

ワークサンプル(模擬作業)を通して、そこでは、「こんな作業は得意かも。」「こんなアイテムがあると作業しやすいな。」などが感じられるプログラム内容となっています。

就労移行でも使用しているサンプルなので働く準備をしていくには、必要なプログラムです。

13:00



**リフレッシュ**

リフレッシュプログラムでは余暇や気分転換の参考となるようにスポーツや調理(クックタイム)、DVD鑑賞などを行っています。メンバーさんからはこの時間をもっと増やしてという要望が多いです。

14:00



ご本人と話し合いながら  
決めた自立訓練の  
プログラムを  
一日の予定に沿って  
ご紹介します。

**自立  
訓練**

~今のがんばりに目を向けて~



問型を取り組み始めました。  
ください。



# 就労継続 支援B型

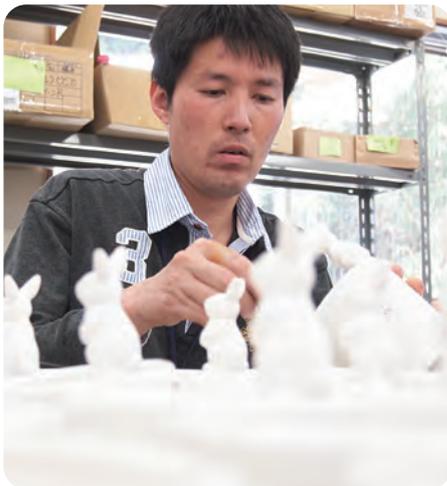
## めいとくの B

# 未来を 描く



▼はじめに  
めいとくのBが始まり、1年9ヶ月が経過しています。毎日、20名のスタッフのみならず楽しく働いています。今回、めいとくのBで働いているスタッフのこれまでの現在、そして将来を見据えたそれぞれの働き方について、今回は2名の方にお話しを伺いました。

## FUKUDA TAKAHIRO



福田さんは、働き始めて1年4ヶ月。各部門で活躍されている1人です。商品部門の部品の組み立てでは作業量が一番多く、作物生産部門や竹炭部門でも、周りを見て作業を進んで取り組んでいます。今回の特集では、ご家族を含めた対談を行いました。

### ▼これまでのことを教えてください

「普通の中で普通に育てました。幼少期は言葉が遅いくらいで他の子どもと変わらずに遊んでいました。小学校は、同じ幼稚園の仲間と一緒に複式学級がない学校を選び、仲間にも恵まれ、先生方にも支えられ、中学校の体育祭では委員長も務めることができました。」と恵まれた環境で育った様子を話していただきました。しかし、高校に進学させることは考え

ていなかったようです。

「嵩大が俺もみんなと一緒に高校に行きたいと伝えてきたんです。高校に進学され、好きな電車ですごすことを楽しみにし、みんなと同じように高校生活を送ることが出来ました。周りからのいじめもありました。嵩大さんやご家族にとっても辛い経験でした。学校をやめようと思ったのですが、高校の先生や友人に支えられて、いじめられな

くなり卒業されました。俺もみんなと短大に行きたいと言われて、短大に進学されました。短大で再びいじめがあり「社会に出て、外に出て、どこに行っても標的にされてしまう。標的にされるくらいなら外に出したくない。」というご家族の思いから、短大卒業後はご両親の仕事の手伝いをして過ごしていました。



### ▼めいとくのBとの出会いを教えてください

「福祉施設の利用は幾度と考えたんですが、『僕は頭が悪いから行くの？どこが悪いの？』と言ってくるんです。そう言われると何と言っているかわからないんです。」

お父様が亡くなられて、自宅で過ごすことが多くなった嵩大さん。このままじゃいけないと思い、相談支援事業所に相談されました。嵩大さんは、見学を重ねていくことで「行ってみよう」という気持ちになり、B型の利用につながりました。

### ▼嵩大さんに変化はありましたか

「B型を利用し始めて、以前は細かい作業が苦手だったんですが、器用に作業をする姿を聞いたり、見たりして驚きました。毎日利用することを楽しみにし、いい表情で帰ってくる。親子共々本当に安心することができるようになりました。方々に出会って本当にラッキーです。」と微笑みながら話してくれました。嵩大さんも「作業は全部好きで、仲間とも仲良くできています。」と話してくれました。

### ▼ステップアップについて教えてください

「今充実して過ごすことができています。A型事業所にステップアップするということは、環境が変化するというので、嵩大が精神的にダメージが来る可能性があるから、不安があります。でも、本人がやりたい目標や目的があれば、それを一生懸命応援したい。」と、嵩大さんを今までサポートし見守ってきたからこそその言葉でした。

### ▼本人らしい人生設計はどのように考えますか

私たちは、嵩大さんはB型だけではなく、もっともっと向上することが出来る方だと思っていることを伝えました。「安心できる環境で、息子の力をもっともっと発揮できる作業があればステップアップもできますね。」とお母様。現在B型では、将来自立した生活ができるようになるために必要な力を身につける準備を一つずつ取り組んでいます。





障がい者支援施設  
**チャレンジめいとくの里**

生活介護 施設入所支援  
短期入所 日中一時支援

〒861-5503 熊本市北区明徳町707-1  
☎096-215-9101 ㊚096-245-2344  
mail c.meitoku@meitokukai.jp



**ゆめくらしワークス事業部**

就労移行支援 生活訓練  
就労継続支援B型

☎096-215-9103 ㊚096-273-6343  
mail meitokunosato-works@meitokukai.jp



障がい者グループホーム  
**ゆめくらし事業所  
orangehouse**

共同生活援助

〒861-5503 熊本市北区明徳町948-1  
☎096-223-5161 ㊚096-245-5951  
mail yumekurashi-orange@live.jp



地域生活支援センター **チャレンジ**

相談支援事業

〒861-0132 熊本市北区植木町植木163-1-1F  
☎096-227-6450 ㊚096-227-6451  
mail meitoku-challenge@live.jp



障がい福祉サービス事業所  
**ケア・ハピネス**

〒861-5512 熊本市北区梶尾町1379-3  
☎096-245-6611  
mail meitoku-challenge@live.jp

